

みず

No. 39
道彩展機関紙

道彩展機関紙“みず”第 39 号
発行 北海道水彩画会
道彩会代表 小堀 清純

札幌市西区発寒5条8丁目
13-24-1101号



年 1 回発行

<http://www.ne.jp/asahi/so-bi/net/dousai>

第42回

道彩展を終えて

2023年9月20日

9月24日

札幌市民ギャラリー

入場者増える

道彩会代表 小堀 清純

第42回道彩展は一三九点の作品が搬入され、厳選した一〇二点が展示されました。入場者は連日、二百人余りとなり盛会裏に幕を閉じました。一般出品者がやや増加し、多様性のある表現と具象・抽象画、大胆な画面構成等ヴァリエティに富んだ作品が集まり充実した展覧会となりました。

最近の傾向として透明水彩画が増加しています。今、公募展や美術界を取り巻く状況は厳しく、特に若者の公募展離れが見られ出品者の高齢化が進んでいます。今年度から三〇歳以下の出品料を無料とするなどの見直しを行いました。

出品者が減少する中で最も重要なことは、会員各自が奮起し、鑑賞者に感動を与える作品を発表することだと思います。それが精進し、共に頑張りましょう。

第42回道彩展受賞者

道彩展賞

若杉 博文（札幌）

北海道知事賞

西方 礼子（苫小牧）

札幌市長賞

藤枝 和政（北斗）

札幌市教育長賞

井利元敬子（石狩）

北海道新聞社賞

三尾 画子（函館）

八木賞

松井 友里（小樽）

伸子賞

野崎 和男（札幌）

奨励賞

木村 寿之（江別）

田中 孝昌（当別）

斉藤 利朗（札幌）

村井美智代（苫小牧）

会員推挙

加藤 政史（札幌）

亀倉安規子（札幌）

佐藤 亜子（札幌）

豊島美恵子（石狩）

原 貴子（石狩）

会友推挙

井利元敬子（石狩）

西方 礼子（苫小牧）

島田 光宏（札幌）

滝沢 慶子（滝上）

若杉 博文（札幌）

自由かつ多様な

表現美に触れて

詩人・美術評論家

柴橋 伴夫

第42回道彩展（9/20～24）

を概観させていただき、この会がさらに「自由な表現」を切り拓いている姿を目のあたりにしてとても感慨深いものがこみあげてきた。公募展というものは、どうしても審査により入選の可否が決まるもの。さらに受賞後も、より高い「へいただき」をめざして会友、会員へと歩んでゆくことが求められることになる。ここで最も大事なことがある。それは具象・抽象を問わず、つねにオリジナルなものを求めてゆくこと。他とは似ないこと。マネをしないこと。そして何を表現するのかそれを思索しつつ「技法」「描法」を磨くことではないだろうか。

それにしても、道彩展は年を重ねる毎にその「存在価値」を高めていると実感した。そして互いに「励まし合い」良い作品をつくり出そうとしているとも感じとった。それはとても大事なことである。だがそれは一朝一夕にはできないこと。代表や事務局の方々の日々のとりくみがそれを支えているのである。その労を讃えたい。

さてここで受賞作品について私なりの視点でのべておきたい。



「古い洋館のある坂」若杉博文

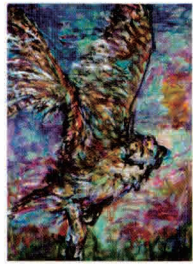
まず道彩展賞（会友推挙）の若杉博文「古い洋館のある坂」は構図が安定し、色をやや抑え気味にしつつ風情のある坂の街を丁寧に描出していた。北海道知事賞（会友推挙）の西方礼子「越中初雪」は越中の家並みと景色、さらに初雪が舞うことで跳ねる空気感をよくとらえていた。前面に車道の空間を広くとったのもいい。札幌市教育長賞（会友推挙）の井利元敬子「ミシンのある静物」は卓上のミシンなど独自の色彩でまとめているが、背景がやや弱いようだ。私が注目したのは札幌市長賞の藤枝和政「色・空」。鉛筆を用いて流動する空間を造り出していた。緻密な線。うねる渦。一つの「宇宙」をつかんでいる。また北海道新聞社賞の三尾画子「冬の木立」は木立の凛とした造形が卓越していた。前景の雪原ととてもいいハーモニーを奏でていた。奨励賞の木村寿之「追憶」は、的確な裸婦のデッサンが心を引いた。そして色との混合もうまく作用していた。新し

い可能性を秘めているようだ。あとは紙幅の関係で足早になるが許してほしい。八木賞の松井友里「光芒」。もう少しフォルムのうねりが欲しい。伸子賞の野崎和男「秋の彩り」は小品だが色を点のように置き光のドラマ



「色・空」藤枝和政

を演出。会員推挙の亀倉安規子「Norman Park」は木立の表現が佳品。会友推挙の滝沢慶子「冬の高原」は俯瞰した冬山の空気をよく表出。地塗りも効果的。奨励賞の村井美智代「古木と清流の響き」と同賞の田中孝昌「層」は写実をベースにした絵づくりに好感をもてた。会員推挙の佐藤亜子「暁に翔ぶ」は多色を配し鼻をダイナミックに表現。最後に短くなるが会員の作品について評しておきたい。中田やよひ「Impression」は花(枝)が上へと進展。動勢の中に生命の輝きを感じ。林田理栄子「百鬼夜行」はベニスのカーニバルを主題。ユーモラスでどこか日本画的な味あり。長谷川英夫「水田夕景」は馥郁たるものが在る。大橋頼子「柳谷観音の花手水」は、色彩の(ヘマンダラ)図とな



「暁に翔ぶ〜コタンコロカムイ〜」佐藤亜子

受賞者の声

西方 礼子

この度は、名誉ある賞を戴きありがとうございます。心から感謝申し上げます。私が水彩画と出会ったのは、習っていた日本画が、私にはハードルが高くて悩んでいた時、ふと入った水彩画展ですばらしい絵をみつけて感動したのがきっかけでした。いまだ皆様のおかげで励ましや助言でここまでくることができ感謝しております。

り庄巻。中井久美子、山田陽子、黄倉和子の作品には良質のニュアンスが脈動。林正行「冬枯れ模様」は細部づくりに心をこめていた。渡辺貴美子「教室の風景」は人物を効果的に配置し、親密感を創出。田中裕紀子の「いえなみ」はより単相化し抽象化へ。糸塚章子、小杉千賀子らは新しい画題をみつけたようだ。今後に期待する。

小堀清純「棚田風景(あらぎ島)」は和歌山の有田川町清水にある水田とがっちりとおつかりながら活写。色は重いが厚みあり。



「秋の彩り」野崎和男

この絵は主人と富山県五箇山に旅した時、雨から雪に変わる駐車場からの山並みがきれいと思ったので絵にしてみました。紙はアルシユを使っています。写真には、車が一台も映っていないのですが、駐車場とわかるようバスも含めて五台ほど描いています。葉葺屋根の家は、最初10号で描いた時、うまくいったので、一度大きいサイズで練習してから本番描きました。緊張感をもって最後まで描けてよかったです。これからも、日々精進して、少しでも良い絵が描ければと思っています。

三尾 画子

この度は名誉ある賞を戴きありがとうございます。昨年初めて道彩展に10号を出品し、会場で40・50号を展示されているのを見て刺激を受け、今年は40号に挑戦してみました。描いてみて、初めは大きさに戸惑い、又迫力不足に陥らない様にと、頑張ってみました。今回冬景色を描いてみたいと思い、2月の厳しい寒さの中、近くの公園に何度も足を運び構図選びに苦労しました。これからも皆様に少しでも近

第43回道彩展 作品公募

- 会期 2024年9月18日(水)～9月23日(月)
 - 会場 札幌市民ギャラリー
 - 搬入 2024年9月14日(土) 10:00～18:00
- <http://www.ne.jp/asahi/so-bi/net/dousai>

づいていける様、レベルアップしていきたいと思っています。どうぞ宜しくお願い致します。

田中 孝昌

貴公募展に参加する機会を与えて下さり誠にありがとうございます。また受賞の上に、多くの方にご覧いただきとても嬉しく思います。

さて、この絵は、百合が原公園のホップの垣根がモチーフです。南国育ちの私には興味深い植物でした。色味の少ない世界ですが、葉や蔓が織りなす層にはいつも美しさを感じます。同じようなパターンの繰り返しなので、飽きが来ないように要所で描き方を微妙に変えて仕上げました。

紙の白を大切にしたい透明水彩特有の表現に魅せられて止まず、この画材の持つ清潔感を感じさせる制作活動を今後も続けてまいりたいと思います。

'24 行事計画

第1回みず展

2月20日(火)～2月25日(日)
ギャラリー大通美術館

研究会 内容未定

第43回道彩展

9月18日(水)～9月23日(月)
搬入：9月14日(土)

札幌市民ギャラリー

道彩会地区展

函館展 未定
江別展 未定

道彩展に関する お問い合わせ

道彩会事務所

糸塚 章子
札幌市東区本町1条6丁目7-11
(011)782-5781

函館地区連絡所

大山 栄子
北斗市七重浜8-21-3
(090)6692-2831

江別地区連絡所

中島 恭代
江別市野幌若葉町46-31
(011)385-4217

編集後記

人々の動きが再開した今年、本展、授賞式ともに通常通りの開催ができました。今回出品者が増えたことは、生活のリズムが変わる中で、絵を描くことが皆様の心にあり続けたことかととてもうれしく思います。描く仲間の作品を通して、本展が向上的のヒントになればなによりうれしく思います。最後に発行にあたりご協力頂きました皆様に感謝申し上げます。渡辺